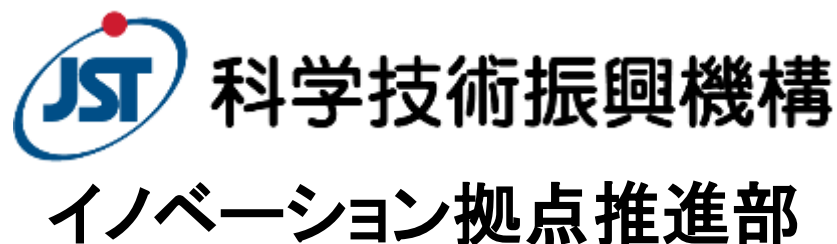




# 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) 拠点活動報告会

## 趣旨説明

令和4年4月7日



# 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の概要 (1/2)

## プログラムの概要

- ウィズ／ポストコロナ時代を見据えつつ、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン（地域共創分野では地域拠点ビジョン）として掲げ、その達成に向けた①バックキャスト※によるイノベーションに資する研究開発と、②自立的・持続的な拠点形成が可能な産学官連携マネジメントシステムの構築をパッケージで推進。
- これを通じて、大学等や地域の独自性・強みに基づく産学官共創拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進。

**「人が変わる」**  
SDGs×ウィズ/ポストコロナに係るビジョンを共有

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、SDGsに基づく未来のありたい社会像を探索し、参画する組織のトップ層までビジョンを共有。ウィズ／ポストコロナ時代の国の成長と地方活性化、持続可能な社会の実現を目指す。

**「大学が変わる」**  
持続的な産学官共創システムの整備・運営

産学官共創拠点を自立的に運営するためのシステム（産学官共創システム）を構築。プロジェクト終了後も、代表機関が中心となり持続的に運営。

**「社会が変わる」**  
科学技術イノベーションによる社会システムの変革

ビジョンからバックキャストし、研究開発目標と課題を設定。組織内外の様々なリソースを統合することで最適な体制を構築し、イノベーション創出に向けた研究開発を実施。ビジョン実現に必要な社会実装、社会システム変革を目指す。

## プログラムのコンセプトイメージ

「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」の国の成長と地方活性化 × 持続可能な社会の実現

SDGs×ウィズ/ポストコロナの社会像（ビジョン）共有



企業等との共同研究推進

科学技術イノベーション

共創の場

自立的に運営するための仕組みと体制を構築

産学官共創システム

(※) バックキャスト：ありたい社会の姿から、主として科学技術が取り組むべき課題を設定、実施計画を策定して推進する手法

# 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の概要 (2/2)

## <プロジェクトに求める2つのゴール (到達点)>

### ゴール①

ビジョン実現のために必要となる  
ターゲットの達成 (研究開発成果の創出)

### ゴール②

ビジョン実現に向けた持続的運営を  
可能とする産学官共創システムの構築

本格的プロジェクト終了後も引き続き、ビジョンの実現に向けて必要となる新たなターゲット・課題に取り組む等、産学官共創システムを備えた自立化した拠点活動を推進

## <ゴールの達成を支える仕組み>

### ① 研究開発マネジメント

- 7年度目 (地域共創分野は5~7年度目) までを目安としてPoC(※1) の達成が見込まれる研究開発課題を設定し推進
- PoC達成以後も、外部リソースを主体としながら、引き続きターゲットの達成に向けた産学官共創の研究開発、成果の社会実装に向けた取組を推進
- プロジェクト内でのJST委託費の配分は、外部リソース獲得状況等に応じ、新たな研究開発課題の実施や既存研究開発課題の加速等に柔軟に充当可能

### ② 拠点の自立化を促す仕組み

- 「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」(※2)に沿った拠点マネジメント体制・機能の構築
- 大学等の法人本体のコミットを要件化するとともに、民間資金等の外部リソースの新たな獲得等自立化に向けた取組を推進
- 本格的9年度目・10年度目は委託費の一定割合の段階的減額を基準とした上で、取組状況を踏まえてJST (PO) が委託費を査定

(※1) PoC (Proof of Concept; 概念実証) :企業等が実用化が可能と判断できる段階。  
ただし、大学等による複数企業の共通課題解決や標準化を目指す課題等のPoC目標については個別に配慮

(※2) 「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」(平成28年11月30日イノベーション促進産学官対話会議事務局)  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/science/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380912\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380912_02.pdf)  
「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン[追補版]」(令和2年6月30日文部科学省・経済産業省)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200630-mxt\\_sanchi01-000008194\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200630-mxt_sanchi01-000008194_01.pdf)

# 拠点活動報告会 開催趣旨および 本日のプログラム構成

# 拠点活動報告会開催の趣旨

- PO が AD 等や JST 職員と協働して、プロジェクトへのハンズオン支援を実施

(ハンズオン支援の例)

- 定期的な現地訪問やリモート会議等によるきめ細かい進捗確認・意見交換

- イベント企画運営等による拠点間の連携・交流の推進

- 拠点運営ノウハウの好事例や課題の共有・横展開等

- 今回、ハンズオン支援の一環として、「**拠点活動報告会**」を開催

- **令和4年度公募を控え、プログラム趣旨や先行プロジェクト事例を広く周知する機会**として位置づけ、公開形式での開催

# 本日のプログラム【第一部】

時間	内容	
10:00-10:05	開会挨拶	松本洋一郎 (PD)
10:05-10:25	拠点活動報告会について	JSTイノベーション拠点推進部
10:25-10:35	共創の場形成支援プログラムへの期待	文部科学省
10:35-11:55	共創分野の拠点活動に求めること	久世和資 (共創分野PO)
11:55-11:15	地域共創分野の拠点活動に求めること	中川雅人 (地域共創分野PO) 西村訓弘 (地域共創分野副PO)
11:15-11:30	休憩	
※第二部(11:30~)は2つのプログラムを同時進行します		

# 本日のプログラム【第二部(パラレルセッション)】(1/2)

時間	内容	
	共創分野	地域共創分野
11:30-11:50	【慶應義塾大学】 誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点	【熊本県立大学】 「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点
11:50-12:10	【金沢大学】 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点	【北海道大学】 こころとカラダのライフデザイン共創拠点
12:10-13:10	昼休憩(1時間)	
13:10-13:30	【東京大学】 地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点	【信州大学】 患者と家族と医療従事者のライフデザインを実現するスマート在宅治療システム拠点
13:30-13:50	【東京大学】 「ビヨンド・“ゼロカーボン”を目指す“Co-JUNKAN”プラットフォーム」研究拠点	【藤田医科大学】 家族が繋がる、人とIT技術等が共生する健康街づくり実現拠点
13:50-14:10	【琉球大学】 資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点	【高知大学】 SAWACHI型健康社会共創拠点
14:10-14:20	休憩(10分間)	

# 本日のプログラム【第二部(パラレルセッション)】(2/2)

時間	内容	
	共創分野	地域共創分野
14:20-14:40	【広島大学】 Bio-Digital Transformation(バイオDX)産学共創拠点	【大阪大学】 未来型知的インフラモデル発信拠点
14:40-15:00	【大阪大学】 フォトンクス生命工学研究開発拠点	【慶應義塾大学】 デジタル駆動 超資源循環参加型社会 共創拠点
15:00-15:20	【大阪大学】 革新的低フードロス共創拠点	【京都大学】 ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点
15:20-15:30	休憩(10分間)	
15:30-15:50	【九州大学】 免疫を標的とするヘルステックイノベーションエコシステム実現拠点	【東北大学】 美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点
15:50-16:10	【東京藝術大学】 「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点	【長崎大学】 インテリジェント養殖を基軸にした「ながさきBLUEエコノミー」形成拠点
16:10-16:30	【北海道大学】 地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点	16:10-16:20 PO、副PO講評
16:30-16:50	【東京農工大学】 炭素循環型社会実現のためのバイオエコノミーイノベーション共創拠点	
16:50-16:55	PO講評	



## 活動報告の流れ【第二部】

○1拠点あたり、以下の時間配分で進行します。(計20分間)

	配分時間	留意点等
発表	15分	➤ 画面共有を行い発表をお願いします。
質疑	3分	➤ Zoom会議の「挙手」機能を使い発言をお願いします。 ➤ 進行の都合上、全ての質疑を受けられない可能性があります。 ➤ YouTube視聴の方からの質問は受け付けませんので、予めご了承ください。
入れ替え	2分	

○発表終了3分前に予鈴、発表終了時に2鈴、質疑終了時に3鈴を鳴らします

## 第二部(11:30~)の参加方法

### ➤ 拠点関係者 (Zoom会議に入室中の皆様)

- 共創分野セッション →このままお待ちください
- 地域共創分野セッション →別途ご案内のZoom会議に入室ください

### ➤ YouTubeにて視聴の皆様

- 共創分野セッション →このままお待ちください
- 地域共創分野セッション →別途ご案内のYouTube配信をご覧ください

- 写真撮影、スクリーンショット、録音・録画は固くお断りいたしますので、ご協力をお願いします。
- 本日の動画は、YouTubeでの同時配信に加え、後日事業HPにて公開する予定です。

### ＜Zoomでご参加、ご発表の皆様＞

- ご発表、ご発言時以外は、マイク・カメラOFFでお願いいたします。
- ご発表は15分厳守でお願いします。質疑は3分です。

(発表終了3分前に予鈴、発表終了時に2鈴、質疑終了時に3鈴を鳴らします)

# 拠点活動における 留意点等

# 審査の観点（共創分野／地域共創分野 本格型）

## プログラムのコンセプト

「人が変わる」  
SDGs×ウィズ/ポストコロ  
ナに係るビジョンを共有

「大学が変わる」  
持続的な産学官共創  
システムの整備・運営

「社会が変わる」  
科学技術イノベーションに  
よる社会システムの変革

## 共創分野・本格型の要件

大学等を中心とし、  
大学等の強みや特色に基づき成果を生み出す、  
**国際的な水準の持続的な産学(官)共創拠点の形成**

## 地域共創分野・本格型の要件

地域大学等を中心とし、  
地方自治体、企業等とのパートナーシップによる、  
地域の社会課題解決や地域経済の発展を目的とした、  
**自立的・持続的な地域産学官共創拠点の形成**

## 審査の観点※

1. 拠点ビジョン・ターゲット

2. 研究開発課題

①バックキャストによる  
イノベーションに資する  
研究開発

3. 運営体制

4. 持続可能性

②自立的・持続的な拠点形  
成が可能な  
産学官連携マネジメント  
システムの構築

※育成型については、観点1～3の構想について審査

昇格審査までの1年程度の中で、**本格型に向けた構想をより具体的に作り込む**  
(これに付随して、一部研究開発を先行的に実施し、構想の妥当性を検証)

(主な活動例)

- ✓ 拠点ビジョンの作り込み
- ✓ 拠点ビジョンからのバックキャストによる、ターゲット・研究開発課題の柔軟な見直し
- ✓ 本格型に向けた小規模な研究開発(アイデア実証等)
- ✓ 運営／研究開発体制とマネジメントの仕組み構築(持続可能性の具体化も含む)
- ✓ ステークホルダーとの関係強化 等

1. 「**ビジョン主導・バックキャスト**」のアプローチを徹底
  - 先端的な研究・技術シーズに基づく「シーズ指向」とは正反対
2. 拠点ビジョン(未来のありたい社会像)の策定・共有における**全てのプロジェクトメンバーでの徹底した議論**とそれに基づく産学官共創拠点の形成
  - 提案時においても、参加メンバー(大学、民間企業、地方自治体等)が一堂に会して徹底した議論を経た拠点ビジョンの設定
3. 「**誰の」「どのような」課題を解決したいのか**の具体化・明確化
  - 「市民全員」「社会」等ではなく、「どの地域の人たち」「どんな年齢の人たち」等の具体的な設定
  - SDGsのどの項目をどのようなストーリー・アプローチで解決したいのか
4. バックキャストの**繰り返し・実施計画の柔軟な見直し**(プロジェクト開始後)
5. **プロジェクトを牽引する人材像**について
  - 固定観念にとらわれず、客観的に物事を考える人材
  - 若手人材、外部からの人材、異質(異セクター・異分野等)人材の登用・活躍
  - PL・副PLに求める多様性・包摂性・柔軟性
  - PL・副PLへの組織からの権限の付与(組織的なバックアップ)
6. 「(JSTの支援終了時に)**拠点・大学等としてどのような姿になっていたか**」の明確化

### 1. 「**ビジョン主導・バックキャスト**」のアプローチを徹底

- 提案者の有する技術シーズを前提とするフォアキャスト的な取組は本プログラムの趣旨と整合しません。技術提供者側の理論に立脚することなく、バックキャストイングにより研究開発課題を設定し、必要な要素は外部からも積極的に取り入れてください。
- 一方で、ビジョンの実現可能性を判断するには提案の優位性が明確に示されている必要があります。評価においては、大学等の知がどのように提案に貢献するのか、具体的に示して説明して下さい。特に類似の取組が国内各所で行われている場合には、それら取組とのベンチマークを求めます。
- ビジョンの実現に到達する、シナリオ・ストーリーを明確にしてください。この際、ターゲットと拠点ビジョンとの関係や、各要素技術をどのようにシステム化して実装するのかご説明ください。



### 2. 拠点ビジョン(未来のありたい社会像)の策定・共有における**全てのプロジェクトメンバーでの徹底した議論**とそれに基づく**産学官共創拠点の形成**

- 多様な参画機関・ステークホルダーの巻き込みを進めて、幅広い視点からの議論に基づいて拠点ビジョンを策定・共有してください。
- 社会実装に向けたニーズの掘り起こし、企業・自治体との連携等、多様なメンバーを積極的に巻き込む仕掛けを、運営体制の面に反映させてください。
- 研究室単位で実現できる取組は本プログラムの趣旨と整合しません。大学主導で産学官連携のプロジェクトを推進し、拠点形成を図ることによって、はじめて実現できる価値や優位性を明確にしてください。

### 3. 「誰の」「どのような」課題を解決したいのかの具体化・明確化

- 拠点ビジョンを概念的・一般的なものに留めず、「誰の」「どのような」課題を解決したいのかという具体的な内容にブラッシュアップすることで、提案の必要性・優位性を説明してください。
- ありたい社会像が、どの関係者間でどのような議論を経て、共感されるものになったのかについて、評価の際には具体的に説明してください。

### 4. バックキャストの**繰り返し**・実施計画の**柔軟な見直し**(プロジェクト開始後)

- ビジョンからのバックキャストにより策定されるターゲット・研究開発課題をはじめとする実施計画は、プロジェクト開始後も、参加者が会してバックキャストを繰り返すことにより、柔軟に見直し・ブラッシュアップを行ってください。
- このプロセスでは、プロジェクトの進捗状況と社会動向等の変化を踏まえるとともに、先行技術や競合する技術、代替手法等の特定と、それらとの徹底的なベンチマーキングを行い、自らの強みと弱みを正確に捉えることが必要不可欠です。

### 5. プロジェクトを牽引する人材像について

- PLには、拠点ビジョンを必ず実現するという強い意志が必要である一方、多様性を積極的に取り入れてあらゆる人・組織と柔軟かつダイナミックに連携・協業する包摂性や柔軟性も必要です。
- 産業界出身の PL ないし副 PL に期待される役割は、アカデミア出身の PL ないし副 PL と連携しつつ、拠点運営機構の人員をとりまとめて主に以下のような事柄を指揮することです。
  - 的確なプロジェクト進捗管理等(マイルストーン管理、競合・代替技術・研究等のベンチマーク、PDCA(計画の柔軟な見直し)等)
  - 知財戦略・知財マネジメント
  - 将来の実用化・社会実装に向けて、社会ニーズや要求仕様等の把握、ステークホルダーとの調整や参加機関・協力者等の獲得
- 拠点運営機構の設置責任者は、代表機関の長または担当理事等として、代表機関が全面的に拠点の運営・活動を支援する体制を構築してください。

### 6. (JSTの支援終了時に)拠点・大学等として**どのような姿になって いたいのか**」の明確化

- プロジェクト終了時に拠点・大学等としてどのような姿になっていたいのか、大学をどう変えたいのか、検討してください。その際、10年後に拠点で中心的な役割を果たす若手メンバーの存在や活動についても、考慮してください。
- プロジェクトリーダーによる強力なリーダーシップや積極的・柔軟なマネジメントを後押しする、代表機関としての組織的で強力なコミットメントも重要です。代表機関には、「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」(※)を踏まえた産学官連携マネジメント改革に取り組んでいただきます。

(※)「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」(平成28年11月30日イノベーション促進産学官対話会議事務局)  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/science/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380912\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380912_02.pdf)  
「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】」(令和2年6月30日文部科学省・経済産業省)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200630-mxt\\_sanchi01-000008194\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200630-mxt_sanchi01-000008194_01.pdf)